

三八地域果樹生産情報(第5号)

平成28年7月15日
三八地方「攻めの農林水産業」推進本部

I 生育

1 りんご

7月11日現在の果実肥大は、三戸の‘ふじ’が4.8cm（平年比104%）、八戸の‘ふじ’が4.9cm（平年比111%）といずれも平年を上回っている。

‘つがる’、‘ジョナゴールド’についても‘つがる’は108%（平年比）、‘ジョナゴールド’104%（同）と平年を上回っている。

表1 果実肥大状況（横径） （単位；cm、%）

地点	品種名	区分	6/1	6/11	6/21	7/1	7/11	7/21
三戸町 梅内	ふじ	本年	1.8	2.7	3.6	4.2	4.8	
		平年	1.4	2.3	3.2	3.9	4.6	5.2
		前年	2.3	3.2	3.8	4.4	5.2	5.6
		平年比	129	117	113	108	104	
	つがる	本年	2.0	3.1	4.1	4.9	5.7	
		平年	1.6	2.6	3.6	4.4	5.3	6.1
		前年	2.5	3.5	4.2	5.1	6.2	6.7
		平年比	125	119	114	111	108	
	ジョナ ゴールド	本年	2.0	3.1	4.0	4.7	5.4	
		平年	1.5	2.6	3.6	4.4	5.2	5.9
		前年	2.7	3.5	4.3	5.1	6.1	6.4
		平年比	133	119	111	107	104	
八戸市 櫛引	ふじ	本年	1.8	2.7	3.5	4.2	4.9	
		平年	1.3	2.2	3.0	3.7	4.4	5.0
		前年	2.1	3.0	3.8	4.4	5.0	5.6
		平年比	138	123	117	114	111	

※平年値：‘ふじ’、‘つがる’、‘王林’ 1996年～2015年の20年間の平均
‘ジョナゴールド’ 1997年～2015年の19年間の平均

2 ぶどう

露地‘キャンベル・アーリー’の「落花日」は6月14日で平年より8日早かった。

表2 ぶどうの生育ステージ 月／日

調査地点	品種名	区分	被覆	催芽日	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
三戸町 梅内	キャンベル・ アーリー (露地)	本年	—	4/11	4/21	5/ 4	6/ 8	6/11	6/14
		平年	—	4/18	4/26	5/ 7	6/15	6/18	6/22
		前年	—	4/12	4/21	4/30	5/30	6/ 3	6/ 7

※平年値：1997年～2015年の19年間の平均

Ⅱ 今後の作業等

1 りんご

(1) 仕上げ摘果

果実肥大は平年を上回っているが、摘果が遅れると今後の肥大に悪影響を及ぼすことから、まだ終了していない園地ではできるだけ早く終わるようにし、引き続き見直し摘果を行う。

(2) 薬剤散布

ハダニ類が発生している園地がみられる。殺ダニ剤を散布した園地では散布後10日程度、様子を観察しハダニ類が生きているようであれば、次回薬剤散布時に殺ダニ剤も散布する。

まだ、殺ダニ剤を散布していない園地では、定期薬剤散布前に樹冠内部の葉（胴木に近い枝の葉の裏）を観察し、ハダニが1頭でもみられた場合は早急に殺ダニ剤を散布する。

モモシンクイガの重点防除時期となっていることから、散布間隔は必要以上に開けずに、散布量も節約しない。

2 おうとう

収穫を終えた園地では速やかに雨よけ被覆資材の除去とお礼肥を施用する。施肥量の目安は窒素成分で年間施用量の20%程度である。

これからハダニ類やケムシ類、また褐色せん孔病等、葉に被害をもたらす病害虫が発生する時期となる。収穫後の薬剤散布を怠らないようにする。

7月2日～3日にかけての強風により、収穫を断念した園地など樹上果実が残っている場合は、来年産のため放置せずできるだけ摘み取り病害虫の密度低下を図る。

3 もも

‘川中島白桃’の硬核期が終了したので、修正摘果を行う。発育不良果、変形果、病害虫被害果を中心に除去する。樹の部位によって着果配分を行い、目通りを100とすると、上部は110、下部は90程度に調整する。

4 西洋なし

仕上げ摘果が行われていない園地では、作業を急ぎ早めに終わる。フレミッシュ・ビューティ等で黒星病の発生がみられる園地では、密度低減のため被害果・被害葉を摘み取り、処分するか、土中に埋める。

5 すもも

‘大石早生’の収穫は7月6日頃より始まり、まもなく終盤を迎える。まだ、仕上げ摘果が行われていない園地や着果量が多い園地では、中・晩生品種で良果を見極め、果実の間隔を8～10cm程度に着果量を調整する。

6 ぶどう

2回目の摘心は副梢の展葉枚数が8～9枚になった頃で、1回目の摘心後に伸びた副梢を5～6枚残して摘心する。これ以降も副々梢が伸びる場合は3～5葉で摘心を行う。摘房は早めに行うと果実品質向上効果が大きく、葉数14～18枚の結果枝で1果房、葉数20枚前後の結果枝で1～2果房、葉数25枚以上で2果房とする。